

## 家庭科教育における保育（家庭一般）の研究

広島大教育 淑之ロスミ 初田公子 鈴木礼子

徳島大教育 吉成リヤ、広島県立北陽高 永尾忠子

目的 高等学校家庭科教育の中で 保育教育の重要性は提唱されているにもかかわらず、現場における教育の実践的効果は疑わしい。そこで 実際の教育現場でどのような状況にあるか、教育内容・方法などの実態を探るため、調査を実施し、今回の結果と、家庭科教育学会誌オ8巻に掲載した「高等学校における保育教育の研究」（昭和40年調査）の結果との比較検討を試みた。

方法 広島・島取・山口・徳島・香川の5県の家庭科教師を対象に、昭和52年7月下旬～8月中旬にかけて、質問紙法により調査した。回収率は66.3%であった。

結果 家庭一般の履習単位は、対象校全部が女子に4単位必修とし、男子では2単位必修の高校が5校あった。家庭一般の各領域の配当時間の割合は、食物32.8%、被服27.0%、住居7.7%、保育16.8%、家庭経営14.8%、その他0.9%であった。

保育領域の内容項目では、「乳幼児の心身の発達とその特徴」「乳幼児の生活指導」「乳幼児の食物と被服」の3項目が、保育領域総時間数の65%を占め、「保育の現代化と今後の課題」「社会と子供の関係と福祉」「保育の協同化と集団保育」の3項目の平均授業時間数は1.4時間（5.8%）と低かった。

指導方法は、視聴覚器械を中心に、幅広い教材が使用されていた。